全国女性造園技術者の会　2019 年度総会＆交流会 in 信州報告

近畿・中国ブロック　青木ひろみ

2019 年度の総会は、第 36 回全国都市緑化信州フェア「信州花フェスタ 2019」が開催中の長野県松本市にて、６月８日（土）に開催されました。また交流会として、翌９日（日）には松本城、恵泉蓼科ガーデン等を見学しました。全国からゲストを含め３２名が参加し、盛りだくさんの内容で充実した二日間となりました。

◆総会

2019 年度総会は６月８日 16：00 より、ホテルモンターニュ松本にて開催されました。（出席者 26 名、委任状 72 名で成立）

第１号議案の 2018 年度活動報告及び収支決算報告、第２号議案の役員改選(案)、第３号議案の 2019 年度活動予定(案)及び収支予算(案)が承認されました。また、第２号議案の役員改選において、会長に大橋尚美さん（東京）、副会長に山﨑誠子さん(東京)、曽根文子さん（京都）、その他事務局長、幹事、運営協力者の方々が選出承認され、新体制でのスタートを切りました。

◆花と緑を語る会

総会に引き続き、16:40 からの「花と緑を語る会」では、「となりの会員何してる？」と題して、３人の会員に話題提供を頂き、日頃取り組んでいる仕事や活動、これまでの経験談など、ざっくばらんにお話し頂きました。

最初に若松美津子さん（東京）より、清掃工場の緑化を通し、地域の方や子供たちが緑に触れる機会をつくる取組みについて、苦労話も交えながら楽しくお話いただき頂きました。続いて時松淳子さん（千葉）より、会社設立から現在に至るまでの経緯、組織づくりにおけるご苦労や人を育てる想い等をお聞きしました。最後に梅本美奈子さん（東京）より、江戸時代に作出された古園芸品種のツツジが引き継がれる日比谷公園つつじ山の再生の取組みについて、管理の難しさも交えながらお話し頂きました。

◆懇親会

引き続き、ホテルモンターニュ松本にて行われた懇親会では、恒例のブロック毎の近況報告をはじめ、大いに盛り上がりました。

◆自主企画

総会に先立ち、自主企画として信州花フェスタ 2019 のメイン会場である長野県松本平広域公園（信州スカイパーク）を見学しました。スタッフの方から会場のご説明を受けた後、４月に会場で行われた女性造園技術者技能競技大会にて金賞を受賞された、会員の島田遥さん（滋賀）の作品をご本人の解説をお聞きしながら、見学しました。

信州松本空港の滑走路に隣接する「北アルプスの花の丘」はあいにくのお天気で山々は曇の中となってしまいましたが、飛行機の離陸とともに大花壇の景色を楽しみました。

2019 中国北京国際園芸博覧会　見学会

東京ブロック　滝澤　えり子

2019 年７月 19 日（金）から７月 21 日（日）の３日間で実施した「全国女性造園技術者の会 2019 中国北京国際園芸博覧会（以下「北京花博」）見学会」の参加報告です。開催運営にご尽力いただいた井上花子さんをはじめとする会員６名と、大橋尚子さん所属先の上海事務所から日本語が堪能な陳さんの参加を得て、計７名の視察ツアーとなりました。

北京花博の内容は盛りだくさんで、参加者皆さんの感想や得た成果も様々。見学後の議論もたいへん盛り上りました。とはいえ、私にとっては初めての中国・北京でもあったので、北京花博以外の感想も含めたい思いもあり、以下ツアーの日程順に報告します。

■１日目　７月 19 日

１．北京市街の街路景観

昼過ぎに北京着。まず、北京市街を歩きました。道路幅員は広く自転車専用道もあるうえに歩道や緑地帯の幅も広く、全体的に緑が多い印象を受けました。欧米のブランドショップが入る超高層ビルも立ち並んでいて、これにも圧倒されましたが、歴史ある古い都市なのに、さすが土地はある、公共の力は強いということなのでしょうか。

↑北京市の街路　広い！

２．世界遺産「頤和園」

頤和園（いわえん）は、清朝第六代皇帝の乾隆帝が母の還暦の祝いとして離宮を造ったのが始まりで、現在は庭園公園となっています。広大な湖と楼閣等の建物の風景は有名。美しい緑豊かな印象でしたが、私は中国全土から来たと思われるバスツアーの観光客や小学校の団体の多さに、たいへん驚きました。

↑頤和園　曇りでちょっと残念

歴史的建造物や庭園に多くの中国の方が訪れるのを見ると、政治の変化だけでなく、自国の歴史や文化に対する個人の興味や関心を消すことはできないのだろうと思いました。

■２日目　７月 20 日

１．世界初という AI 公園（海淀公園）

北京市海淀区が大手企業百度と事業提携して、既存の公園を再整備したという AI 公園のランニングコースを見てきました。

↑AI 公園　ランニング記録表示板

スタート地点に顔認証のカメラがあり、１周の最速記録、累計運動時間、累計運動距離を記録し、表示板で記録やランキングを表示するというもので、早朝から散歩やランニングなどの利用者が多く、このシステムも結構利用されているように見えました。空港で顔認証や指紋を取られたの

ですが、ここでは自ら顔認証を試してしまった私たちでした・・・。

２．2019 中国北京国際園芸博覧会見学

本題の北京花博です。開催テーマは「緑色生活 美麗家園（Live Green, Live Better）」、会場は北京市延慶区（北京市内から北西に約 80km の位置）で、会期は 2019 年 4 月 29 日～10 月 7 日でした。会場は約 960ha もあり、参加 80 か国以上、国際機関 17、中国国内の参加も多く、ポイントを絞って見学しました。ここでは、それらの中からさらに絞り込んで、印象に残った展示について報告します。

↑マスコットキャラクターの
モザイクカルチャー

〇上海市の出展

中心に池を配置。高低差がある複数のゾーンを園路で繋ぎ、様々な視点から景色を楽しませるようにデザインされ、スケール感も生活になじむ適度な感じ。在来の植物を多く使って自然的と思わせる一方で、新しい園芸品種を色彩よくかつ違和感なく配置していて、開催テーマに合致し、洗練されていて、上品な印象を受けました。ただし、見方によっては日本庭園やイングリッシュガーデンの影響を受けすぎかもしれません。

↑上海市の出展：上海園　中心に池を配置

〇北京市の出展

上海市とは対照的に、故宮内にある皇帝一族の屋敷のような邸宅の庭の形態をモチーフに、中国色を前面に出しつつ、おそらく昔はなかった形式の花壇をしつらえ、花卉類を美しく配植して、様々な見せるための新しいデザインを披露していました。中国の造園技術の事情に詳しい井上花子さんのお話によると、ここ数年で技術力がかなり伸びているとのことです。北京市の出展も開催テーマに合致した内容であったと思います。

↑北京市の出展：北京園　壁をくりぬき
庭園を絵画のように見せる演出

■３日目　７月 21 日

世界遺産の故宮に行き壮大さに圧倒され、来なければわからないものだと思いました。

↑故宮の前で：参加者一同

■おわりに

今後も海外視察ツアーの開催と、若い世代の参加が増えることを期待しています。

赤坂・六本木地区緑化事例見学会

東京ブロック　　山﨑　誠子

2019 年 10 月 20 日（日曜日）、紅葉が始まった東京都港区で東京ブロック主催の見学会を行いました。京都、名古屋、静岡からの参加者もあり予想を上まわる 15 名となりました。見学会のコンセプトは港区内の最新緑化事情の視察。大橋会長と私と会員の蓮池さんが港区景観アドバイザー、景観審議会委員等を務めているため、港区の大規模開発の事情に詳しく、審査のために現場も見学していて、これは会員の皆さんの仕事に参考になると思っていたからです。3 時間ぐらい歩いて無料で視察できるルートを考案しました。

以下が視察場所とその特徴です。

①　コマツビル

集合場所として指定したところ、日曜は見学できませんが、昭和 41 年から設置されている屋上庭園があり日本花の会が管理しています。

②　赤坂インターシティ Air

刈り込まない、そろえない自然の造形にこだわった 5,000 ㎡超の緑地を有する赤坂・虎ノ門エリアの再開発。設計は日本設計、施工は日比谷アメニス。令和元年港区みどりの街づくり賞、平成 30 年度都市景観大賞(優秀賞)等、緑化関係の賞を多数受賞しています。

③　アークヒルズ

昭和 61 年に竣工した森ビルによる赤坂・六本木地区の再開発。アークガーデンは杉井明美氏が専任ガーデナーとして運営していました。

④　泉ガーデン

旧住友会館とその周辺の再開発。設計は日建設計。山﨑と蓮池さんが少し設計に絡んでいます。

⑤　住友不動産六本木グランドタワー

六本木プリンスホテルとその周辺の再開発。設計は日建設計。株立ち状の樹木による大規模緑地が特徴。

⑥　東京ミッドタウン

防衛庁跡地の再開発事業として平成 19 年に竣工した。新国立美術館から続くサクラ並木の緑地と雑木の日本庭園の桧町公園が訪れる人のオアシスとなっています。

⑦　パークコート赤坂檜町ザ・タワー

赤坂 9 丁目北地区の再開発事業でできた 44 階建て子育て支援施設、小規模多機能型居宅介護施設を含む集合住宅。外観監修に隈研吾建築都市設計事務所。高低差のある外構の作り方が特徴。

途中、はしょったところがあるぐらい、このルートは緑化の手本、参考になる場所がたくさんあります。私がサカサカ早く移動するので、後半は多少くたびれ気味の方もいらっしゃいましたが、皆さん大変満足されていました。今度は 5 月ぐらいに歩くとまた雰囲気が違って楽しめると思います。参加者の皆様、お疲れ様でした。

京都庭園見学会

近畿・中国ブロック　　仲　結花

2019 年 11 月 25 日（月曜日）、錦秋の京都にて庭園見学会を開催しました。近畿・中国ブロック活動の位置づけですが、全国の会員に声掛けしたところ、27 名（内非会員ゲスト４名）の参加がありました。

見学場所は對龍山荘と無鄰菴。どちらも明治時代の七代目小川治兵衛作庭による南禅寺界隈の別荘庭園で国指定名勝庭園です。

そんな共通点のある二つの庭園ですが、大きな違いは所有と公開方法です。無鄰菴は京都市所有の公共施設で一般公開されている庭園に対し、對龍山荘は㈱ニトリが所有する、これまでほぼ非公開の庭園です。對龍山荘は当会として初めて特別限定公開のお願いをし、事前に会の概要を HP で確認していただき、参観の許可を得ました。

日程については紅葉の美しい時期に開催したいと考え、見学場所の受け入れ人数事情から参加者を制限することもあり、平日開催としました。

↑對龍山荘

■對龍山荘

文化遺産の継承と未来文化遺産の創造のとりくみの一環として特別限定公開をされています。２班に分かれて館長さんのお話と建物内見学、庭園管理を担当されている庭師さんのガイドにより庭園見学を行いました。今回参加者のほとんどが初見です。見学中にも感激の声が漏れていました。施設内にあるニトリ美術館の収蔵品にも興味津々でした。

■無鄰菴

明治の元勲山縣有朋の別荘として作られました。現在は植彌加藤造園株式会社が指定管理者として管理・運営を行っています。２班に分かれて提供プログラムの「庭師ガイド」による庭園見学を行い、母屋２階にてお抹茶をいただきました。

■参加者の感想より

・對龍山荘は、私がこれまで見学した庭の中で、ダントツ NO.１の〝美しい庭〟です。
・對龍山荘のお庭が荒れていたと聞き、この姿になるまでのご苦労と庭の形が整っていくやりがいを思い、興味深く拝見しました。骨格がしっかりしている庭は、このように蘇るのかと感動した次第です。
・管理されている造園業者さんから、実体験のお話を聞けた事は勉強になりました。
・皆さんと意見交換しながら、見学させてもらう事で、世界が広がりました。
・この解説をこの会所属の先輩会員の方と見学することによって皆様の感想が聞けてこういう視点もあったのか！と勉強になりました。
・庭を育成していく考え方はどの緑地にも共通しますので今回の見学会で得た体験を今担当している緑地管理に活かしていきたいと思います。

對龍山荘からは「又違う季節に是非お越し下さい　お待ちしております」とのお言葉をいただいています。季節、休日など設定を変えまた企画したいと考えております。その節には今回参加された方もされなかった方も、ぜひお越しください。

熊本地震震災支援の報告

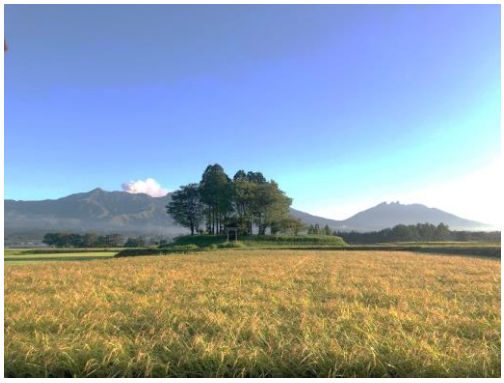
九州・四国ブロック　原　千砂子

平成２８年の熊本地震後、視察し、造園学会で発表するなど取り組みを続けてきた。視察先の一つであるジアスカフェは、震災時にも電気やトイレが使えるなど地域の防災拠点として機能している。当初、竹も燃やせるストーブを希望されたが、諸事情により、グランピング用のテントに変更となった。以下、代表の大津愛梨さんからの報告を転載する。

＜世界農業遺産認定エリア阿蘇におけるグリーンツーリズム推進の取組み＞

世界最大級のカルデラを有し、国内最大の面積を誇る草原を、「野焼き」と呼ばれる火入れ作業で千年以上も維持してきている阿蘇。国立公園としての歴史も古く、その景観は国内外から来る多くの観光客を魅了してきた。2013 年には FAO（国連食糧農業機関）により「世界農業遺産」にも認定され、名実ともに「世界から価値を認められた農村エリア」となった。しかしそんな場所であっても高齢化・人口減少化は他地域と変わらず深刻で、野焼きをする人手不足と高齢化により、草原は存続が危ぶまれている。

草原だけではない。農村そのものが「限界集落リスト」に名を連ねており、この美しい、そして多様な生物多様性を維持しているエリアを今後どのようにして守っていくかは、大きな課題である。



そのような中、明るい兆しもある。2020 オリパラによるインバウンドはもちろんのこと、働き方・生き方改革の流れで、熊本地震発災後も少しずつではあるが都会からの移住者が増えている。また、一般財団法人グリーンストックによる「野焼きボランティア」はこの 20 年でなんと 10 倍以上に増えており、今では年間延べ 2 千人以上のボランティアが草原維持活動に参加するために阿蘇を訪れている。有難い話である。

また、世界農業遺産を契機として、阿蘇の 7 市町村と熊本県が結束して「世界文化遺産」を目指す動きも活発化している。昨年はラグビーと女子ハンドボールの世界選手権が熊本で開催され、今年の秋には「世界水フォーラム」も予定されており、来訪者の受け入れ体制を整えて多くの方に来て頂きたいと考えている矢先に、全国女性造園技術者の会様より、活動に対する支援金を頂いた。この場を借りて、心からの御礼を申し上げたい。

その支援金により、グリーンツーリズムの滞在拠点を増やす奇策として「グランピング」に取り組んだ。農家の庭先や耕作放棄地に大きいテントを張り、阿蘇の自然を肌で感じながら滞在してもらう取り組みにつなげていきたいと思っている。農家民宿は、家屋の改修や知らない人を自宅に泊めるというハードルの高さがあることから、別棟となるテントに泊まって頂いて、トイレとお風呂だけ母屋で使ってもらえば、受け入れ側のハードルが下がるのではないか、という狙いがある。パイロットプロジェクトとして取り組んだ今年度の取組みを元に、農水省の農業女子プロジェクトという部署に「農業女子的おもてなし事業」として全国で推進してはどうかという提案もしている最中だ。

実際にテントを張ってみたところ、観光シーズンの夏休みは朝日が昇ると共に灼熱地獄となり、断念。九州の北海道と呼ばれる寒冷地なので、じゃあ真冬ならどうか、という発想から 1 月に再チャレンジしたところ、これがなかなか面白い。既にパンク状態の夏にお客さんを増やすのではなく、観光客数が減る冬場に、温泉を楽しみながら、ランドスケープ維持のボランティア活動（野焼きだけでなく、竹林整備や苗木の定植・移植など）をした後、温泉で体を温めてから、テントの中で鍋を囲む、ランドスケープツーリズムなるものを今後ご提案できたら、と期待に胸を膨らませているところだ。このような新たな取り組みにチャレンジする後押しをして下さり、本当にありがとうございました。